

大きく変わる学校

1期生の成果を受けて新クラス制実施

三田国際学園中学校



三田国際学園は、1902年に創立された戸板中学校・女子高等学校が、2015年に教育カリキュラムを一新し、共学化してスタートした学校です。現在は世田谷区用賀にありますが、1916年から1993年まで港区三田にあったことから、学園の教育のルーツを常に心にとどめる意味で「三田」を名乗っています。2021年春、三田国際学園としての中高一貫1期生186名が卒業し、国公立大13名、早慶上理ICU29名、GMARCH・同志社・立命館66名や海外大学23名など、進路の面では大きな成果がありました。そこで2022年からさらなるパワーアップとして、新クラス制を実施します。

1. 三田国際学園の学び

『人生に於ける全てのことは知ることから始め、それを好きになり、最後に楽しむ境地に至ったときこそ、初めて自分のものになり、豊かなものになる。』孔子の教えに由来する「知好楽」が1902年の創立時からの教育理念です。「新たな知識を『知る』→面白く感じて『好きになる』→さらに新たな発見が、学びを『楽しくする』→自分が豊かになる」こうした一連の流れが学園の根底にあります。このとき大切なことは、知識を単に受け入れるのではなく、深く考えたうえで活用し、行動し実践すること(Think & Act)、学びは常にしっかりした根拠に基づき、科学的なアプローチ(Science)で行うこと、意見や価値観が異なる他者を受け入れて協働することです。三田国際学園は名の通り(International)、多様性を受け入れて学びを進めています。

2. 新クラス制

今までは本科(レギュラー)クラスとメディカルサイエンステクノロジークラス(以下MSTC)、インターナショナルクラス(以下IC)の3クラス制でしたが、インターナショナルサイエンスクラス(以下ISC)を新設、ICも新たな内容のクラスになります。MSTCは中2からの開設となって、本科クラスは募集停止になります。

3. ISCとMSTCの学び

ホームルームは一般生、帰国生混成で、英語力に

関係なく編成され、ネイティブ教員が副担任としてホームルーム活動や行事などにも積極的に関わります。英語はホームルームとは別に初級、中級、上級の3レベル展開の授業で、上級者はオールイングリッシュの授業です。国語はもちろんですが、数学、理科、社会は日本語の授業です。自然科学、社会科学、芸術など、さまざまな分野の基礎ゼミナールから興味がある講座を選び、自ら課題を設定して調査・研究を行って論文にまとめるなども行います。

サイエンス分野への意欲が旺盛な生徒は希望で(入学試験等による選抜あり)中2からMSTCに在籍、MSTCでは中学で基礎探究 α 、高校で基礎探究 β へと発展させ、数年間かけてじっくり研究テーマに取り組み、紀要をまとめます。こうした学びで、医療系や研究職のマインドを培っていきます。

4. 新たなICの学び

帰国生が多数を占めていて、ホームルームはネイティブ教員が英語で進行しながら日本人教員がサポートします。英語力に応じて2グループ編成で、英語だけでなく、主要教科の授業は数学、理科、社会も段階的に専門分野を持つネイティブ教員によるオールイングリッシュに移行します。また、中3でターム留学または長期留学に挑戦、高校段階では西オーストラリア州の高校卒業資格も取得が可能です。基礎ゼミナールは英語で実施され、英語の専門用語を学びながら探究を進めていきます。